

スマートフォーマットと年金のステュワードシップ活動について

ジャパン・ステュワードシップ・イニシアティブ
運営委員長 小野塚恵美

2020年12月

目次

◆ ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブとは

- 設立趣旨
- 背景
- 代表・運営員会・オブザーバー・事務局
- 会員団体
- 運営のアプローチ
- ワーキンググループ

◆ スマートフォーマット

- スマートフォーマットの浸透
- スマートフォーマットの構成
- スマートフォーマットの活用

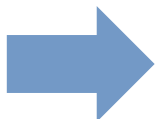
ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブ (JSI) について

ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブとは①

設立趣旨

- 投資先企業、運用機関、アセットオーナー間の一連のインベストメントチェーンが日本企業への成長資金供給と国民の資産形成上の要であることは政府の成長戦略等で示されている。またインベストメントチェーンの最適化は健全な日本の証券市場の発展にも直結すると考えられることから、更なるスチュワードシップ活動の深化・高度化が求められている。特に昨今の国内における取り組みの進展から、スチュワードシップ活動が日本のインベストメントチェーン全体のインフラになりつつあり、その持続性についても重要視されている。今後も、実務的にインベストメントチェーンを実効たらしめるための基礎となる透明性の向上やフィードバックの深化への要請も更に高まっていくものと考えられる。
- 上記のような社会的要請がある一方、これまで業界あるいは個社ごとに実務的な課題があることも指摘されてきている。これらの課題を解決するためには、**個社の枠組みを超えた、業界横断的な意見交換や検討の場の設定が必要不可欠**と考えられている。そのために中立的な立場としての取引所(JPX)の助力を得つつ、関係者横断的に**実務的な課題**に関する対応策等を検討、**ベストプラクティス**等を共有する場として、「ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブ(JSI)」をこの度、設置することとしたい。
- 具体的には、**スチュワードシップ活動の深化・高度化、持続性の向上**の観点から、投資先企業、運用機関、アセットオーナー間の一連の「**インフォメーションチェーン**」の構築が必要不可欠であるとの問題意識の下、本会合は特に、**運用機関、アセットオーナーを中心とした情報伝達の実務を、レポートの共通項目の特定化等**を通じて、より**効果的かつ効率的に行うことを支援**することを目指す。

キーワード:



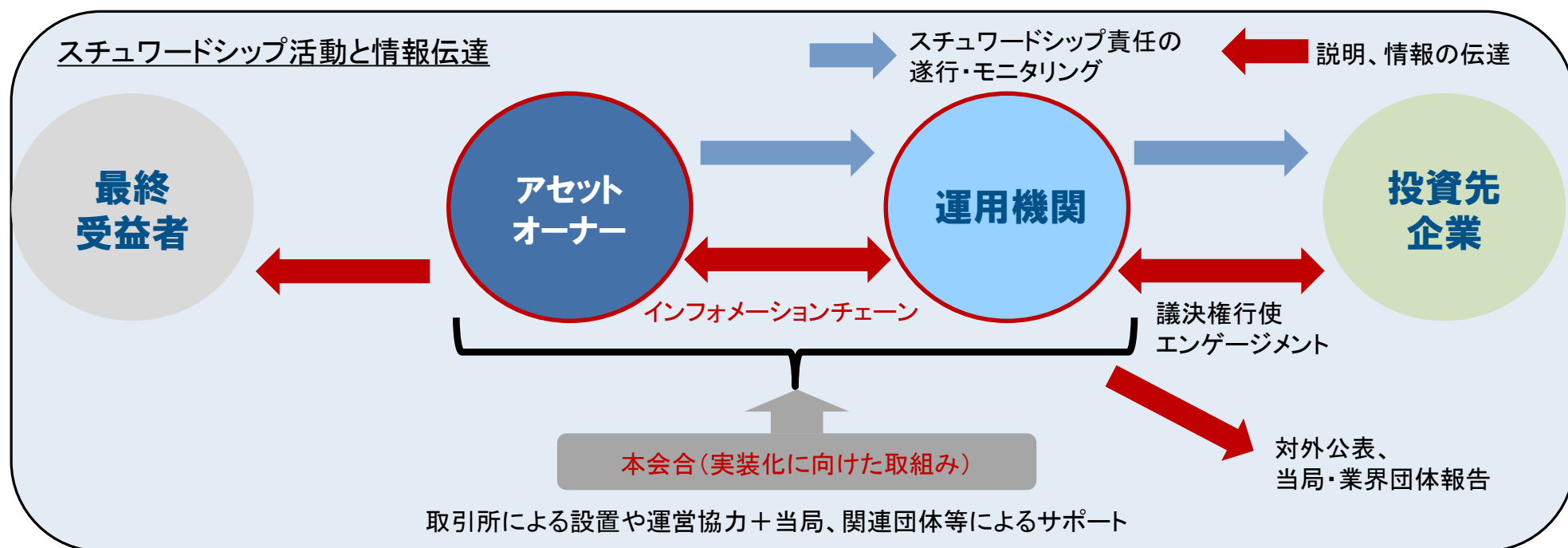
- スチュワードシップ活動の深化・高度化、持続性の向上
- 業界横断的、実務的課題、ベストプラクティス
- インフォメーションチェーン
- レポート共通項目の特定化
- 効果的かつ効率的

ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブとは②

背景

インフォメーションチェーンの構築による各ステークホルダーへの利点

- 機関投資家であるアセットオーナーおよび運用機関がスチュワードシップ責任を推進する過程で、建設的な対話に基づき、中長期的な企業価値の向上を促すと同時に、インベストメントチェーンにおける説明責任を高いレベルで遂行し、活動の透明性の向上を図ることは大変重要である。
- 運用機関による質の高いレポートは、アセットオーナーのモニタリングに寄与することで、最終受益者への説明責任を果たす一助となる。
- 投資される企業においても、アセットオーナー・運用機関間の情報伝達や意思疎通の充実に伴い、エンゲージメントの質的向上（より建設的な対話や情報交換の拡充）が図られ、長期的な企業価値向上につながることが期待される。
- スチュワードシップの高度化・深化には「インフォメーションチェーン」(赤矢印)の構築が必要不可欠であり、本会合は特にアセットオーナー、運用機関による部分において実務的な課題の洗出しと対応(共通化等)をもって、情報伝達を効果的かつ効率的に行うことを支援することを目指す。



ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブとは③

代表・運営委員会・オブザーバー・事務局



設立 2019年11月26日

代表 北川哲雄 青山学院大学名誉教授 東京都立大学特任教授

運営委員会

委員長

小野塚恵美 カタリスト投資顧問株式会社 取締役副社長COO

運営委員（社名五十音順）

アセットマネジメント One 株式会社

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

第一生命保険株式会社

野村アセットマネジメント株式会社

ブラックロック・ジャパン株式会社

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

北川哲雄 青山学院大学名誉教授 東京都立大学特任教授

木村祐基 一般社団法人スチュワードシップ研究会代表理事

矢部 信 公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構特任研究員

オブザーバー

金融庁

日本経済団体連合会

事務局

株式会社日本取引所グループ

株式会社ICJ

ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブとは④

会員団体

あ行

朝日ライフアセットマネジメント株式会社
あすかコーポレートアドバイザー株式会社
アセットマネジメントOne株式会社
アムンディ・ジャパン株式会社
いちごアセットマネジメント株式会社
インスティテューショナルシェアホルダーサービス株式会社
インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド
株式会社エクスネット
MU投資顧問株式会社
オアシス・マネージメント・カンパニー・リミテッド

か行

株式会社格付投資情報センター
カタリスト投資顧問株式会社
一般社団法人 機関投資家協働対話フォーラム
公認会計士企業年金基金
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

さ行

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社
シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社
シンフォニー・コミュニケーション・サービスズ
住友生命保険相互会社
SOMPOアセットマネジメント株式会社

た行

第一生命保険株式会社
ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社
東京海上アセットマネジメント株式会社
一般社団法人 投資信託協会

な行

日興アセットマネジメント株式会社
ニッセイアセットマネジメント株式会社
日本生命保険相互会社
一般社団法人 日本投資顧問業協会
公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構
野村アセットマネジメント株式会社

は行

ビジュアル・アルファ・エルエルシー
フィデリティ投信株式会社
富国生命投資顧問株式会社
ブラックロック・ジャパン株式会社

ま行

三井住友D Sアセットマネジメント株式会社
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
三菱UFJ信託銀行株式会社
明治安田アセットマネジメント株式会社
明治安田生命保険相互会社

ら行

リーガル・アンド・ジェネラル・インベストメント・マネージメント・ジャパン
りそなアセットマネジメント株式会社
ロベコ・ジャパン株式会社
ロボット投信株式会社

ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブとは⑤

運営のアプローチ

- ◆ 運営委員会を中心とした年間計画の策定、毎月の委員会における進捗確認と意見交換
- ◆ 年2回の全体会合における会員への報告、JSI会員団体間の意見交換
- ◆ スマートフォーマットWGの設置
- ◆ 常設HPによる情報発信、お問い合わせの受付
- ◆ ニュースレターによる情報共有



ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブ

ABOUT JSI NEWS SMART FORMAT MEMBER LIST CONTACT

スマート・フォーマット勉強会開催のお知らせ

2020年7月22日

ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブ（JSI）では、以下の日程で参加団体を対象とした改定版スマート・フォーマットに関する勉強会をオンライン開催することになりましたので、ご案内いたします。

日時：2020年7月29日（水）16時～17時
場所：Zoomによるオンライン開催

参加方法は参加団体及び関係者の皆様にてご連絡いたします。
費用：無料

詳細はJSI事務局（jsi@icj.co.jp）までお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

カテゴリ： イベント スマート・フォーマット

最近の投稿

スマート・フォーマット勉強会開催のお知らせ

「THE JSI GAZETTE」創刊

スマート・フォーマット改定版公表

【メディア掲載情報】日本経済新聞

第2回全体会合開催

検索



THE JSI GAZETTE

Japan Stewardship Initiative Official Newsletter
VOL. 1 JULY 2020

ニュースレター発行に寄せて — 代表・運営委員長からのメッセージ —



北川哲雄 代表

青山学院大学名誉教授
東京都立大学特任教授

機関投資家各社の事業会社（投資先企業）との対話は年々レベルが向上しています。各社が定期的に発行するスチュワードシップ報告書や各社の責任投資原則（議決権行使基準）の変化を観察してみるとそれがよくわかります。厳密に深く投資対象企業を分析したうえで対話に臨んでいることがわかります。

一方で事業会社サイドの情報開示の質向上も目覚ましいです。今般（2020年3月）の日本版スチュワードシップ・コードの再改訂は長期的企業価値創造に向けて事業会社と機関投資家との共創関係が重要であることが改めて確認されました。

インベストメントチェーンの中でこのような関係の成熟化はアセット・オーナーに効率的に伝えられなければなりません。JSIの設立の主要目的はここにあり、機関投資家各社がどのような考えに基づき、投資先企業と対話を行っていることを知ること、そのことがインベストメントチェーン全体に大いに刺激を与えることになると確信いたします。



小野塚恵美 運営委員長

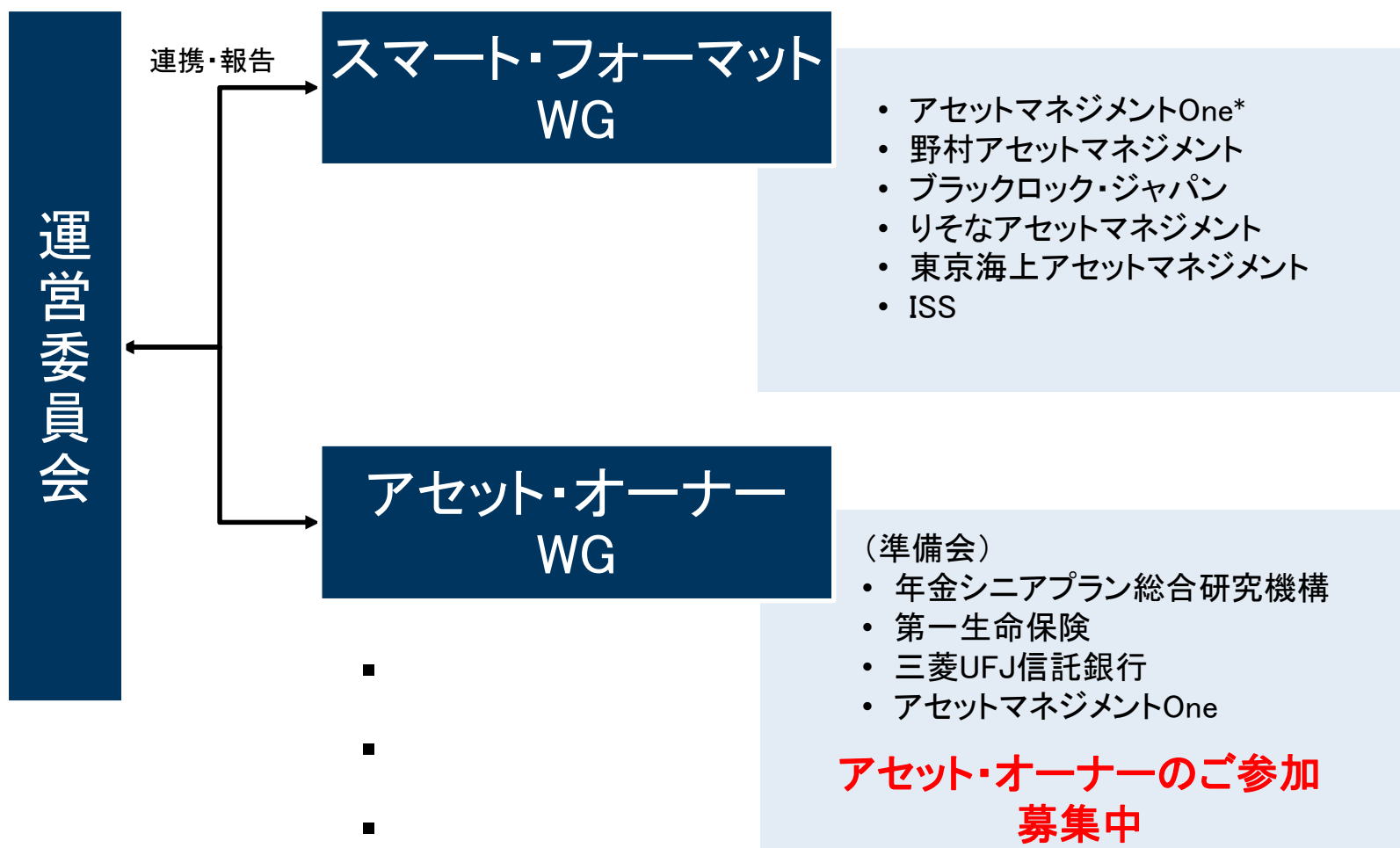
カタリスト投資顧問株式会社
取締役副社長COO

2018年に始まった運用会社の有志を中心とした活動が、2019年11月にインベストメントチェーンに係る多くの方からのご理解と後押しを頂きJSIとして正式に発足しました。これは今後、資産運用業界が大きな飛躍を遂げる第一歩として、前に踏み出した瞬間だと感じました。会員の皆さまをはじめご協力いただきました方々には、改めて厚く御礼申し上げます。

スチュワードシップ責任とは「中長期的な投資リターンを拡大する責任」であり、ここには進行する立場にあるアセット・オーナー、アセット・マネージャーの志とスキル、そして投資を受けるアセット・クリエーターである企業の変化を乗り越えるリーダーシップと戦略が、その成果に大きく影響します。また、財務パフォーマンスだけでなく、ESGを含む非財務にかかる取り組みも価値を生み出す活動のなかで、今後より大きな意味を持つと考えられます。JSIの活動を通じて、日本らしい持続可能な社会と資産運用の高度化を皆様と一緒に考えていければ幸いです。

ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブとは⑥ ワーキンググループ

- ◆ 運営委員会に属する団体を中心にJSIメンバー団体と共にワーキンググループ(WG)を設置
- ◆ 今後も重要テーマの深堀に向けてWGの設置を検討



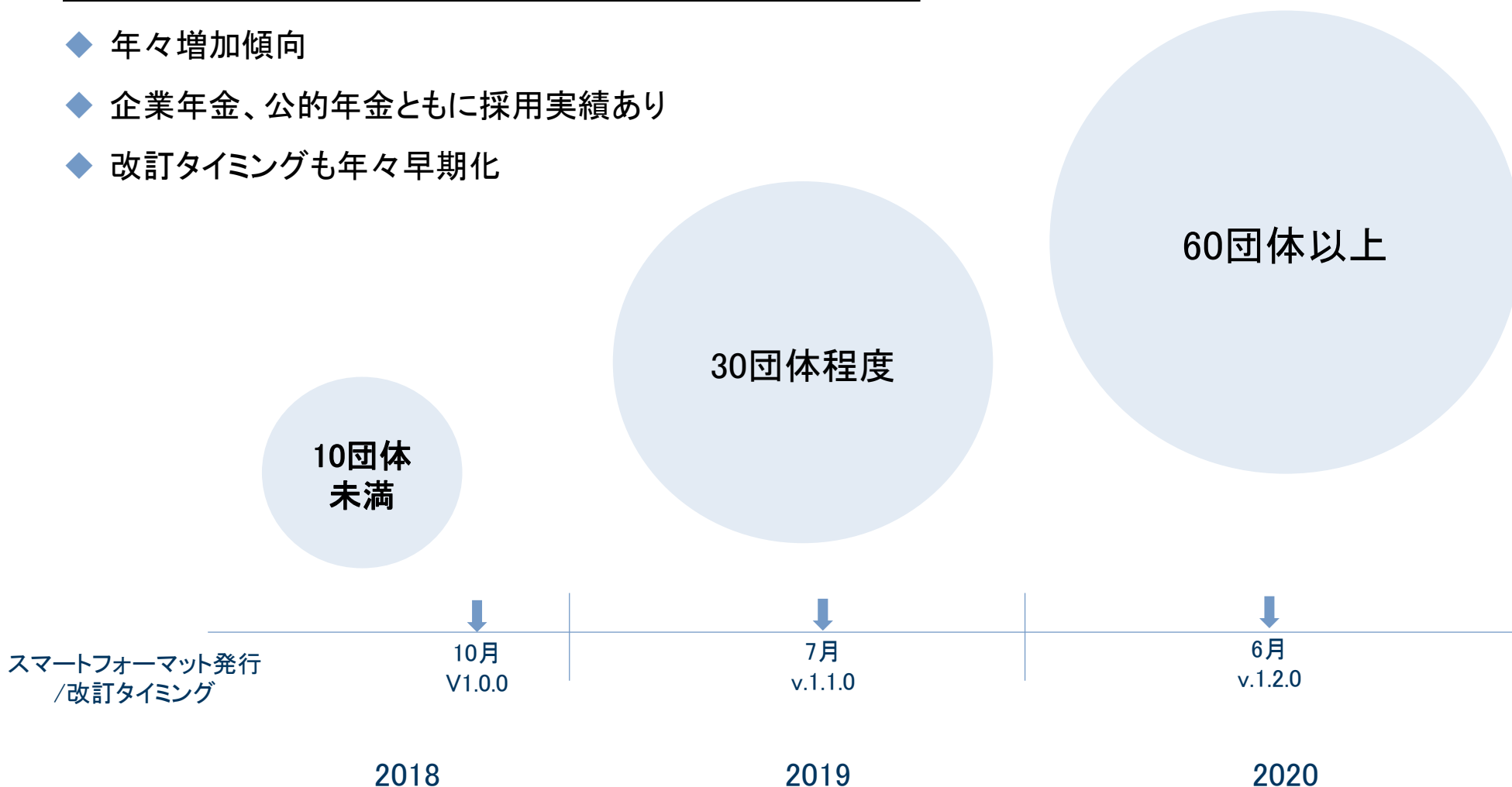
スマート・フォーマットについて

スマートフォーマット①

運用会社のステewardシップ活動のモニタリングに活用できるツール

アセットオーナーによるスマートフォーマットの採用状況(概況)

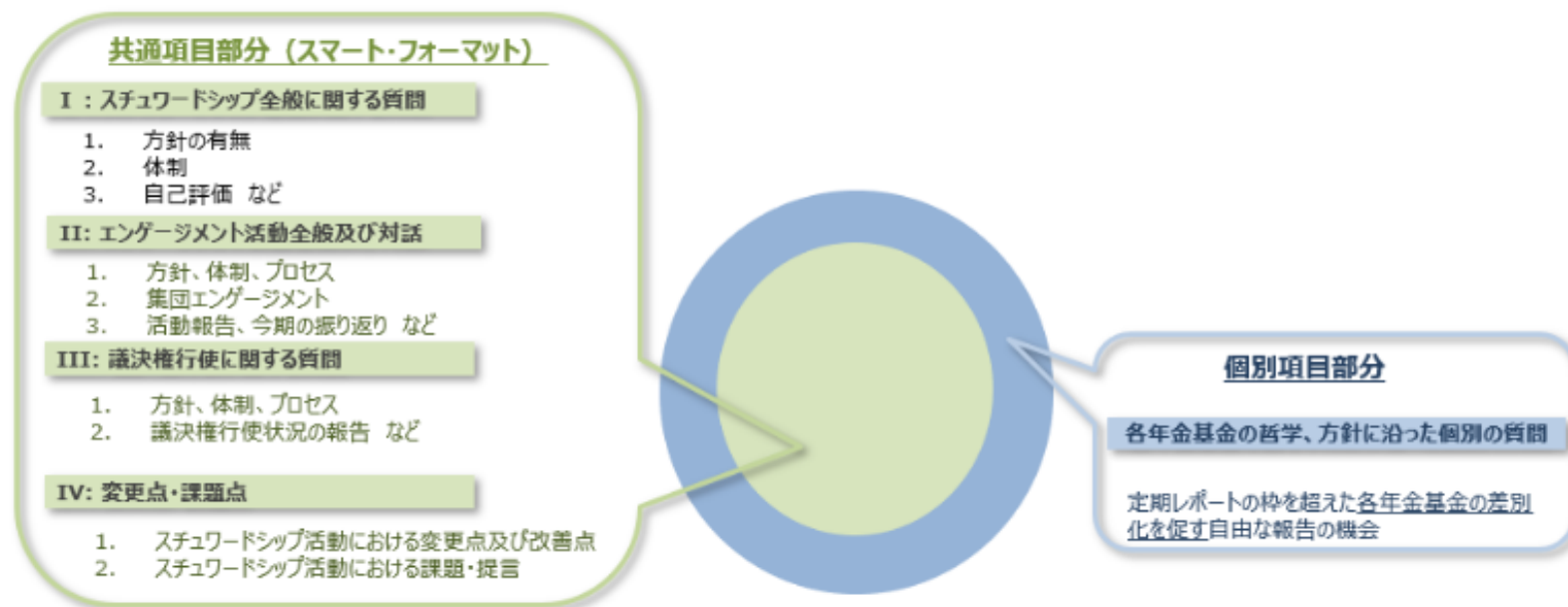
- ◆ 年々増加傾向
- ◆ 企業年金、公的年金ともに採用実績あり
- ◆ 改訂タイミングも年々早期化



スマートフォーマット②

JSIとしてのアウトプット

スマート・フォーマットの構成



各年金基金において独自の報告が必要となる場合は、運用機関において追加的に対応することを想定しております。逆にアセットオーナーに課題意識があれば、スマート・フォーマットに加え、プラスアルファで独自の追加質問を設定することでヒアリング範囲を拡大させ、スチュワードシップ活動を深化させることができます。

※スマート・フォーマットは、適宜バージョンアップ予定

スマートフォーマット③

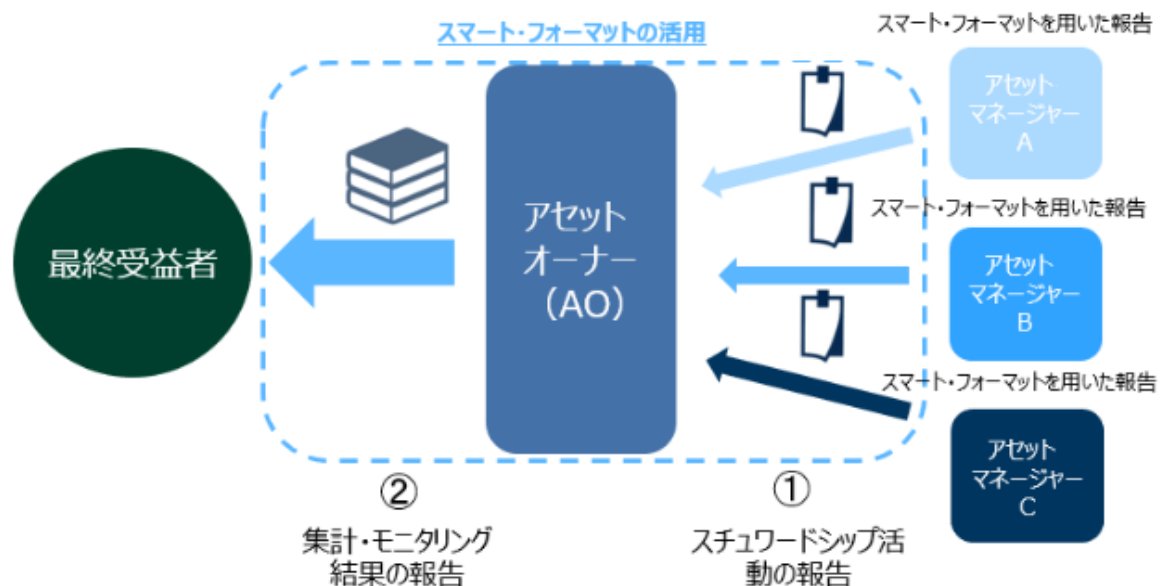
JSIとしてのアウトプット

スマート・フォーマットの活用

スマート・フォーマットは、アセットマネージャー（運用機関）によるスチュワードシップ活動への取り組み状況を、アセットオーナー（企業年金基金）の皆様で一元的に把握できる仕組みを目指し、作成されました。

- ①標準的な質問項目の提供（スマート・フォーマット）
- ②スマート・フォーマット上で各項目に関するアセットマネージャーの回答をまとめて集計、モニタリング

上記2つのプロセスにより実現します。



スマート・フォーマットのご紹介

スマート・フォーマットは、アセットオーナー（年金基金等）に対するアセットマネージャー（運用受託機関）からのスチュワードシップ活動報告に関する新しい報告モデルです。

スチュワードシップ活動の中核的な項目を網羅したレポート様式で、これを活用することでアセットオーナーは各項目に対するアセットマネージャーの回答をまとめて集計し、効果的なモニタリングが可能になるというメリットがあります。

最新版 v1.2.0 2020年7月21日（火）提出分より

[smartformat_v1.2.0.zip](#)

ダウンロード

変更点については「バージョン管理」シートをご覧ください。